

浜松観光ボランティアガイドの会

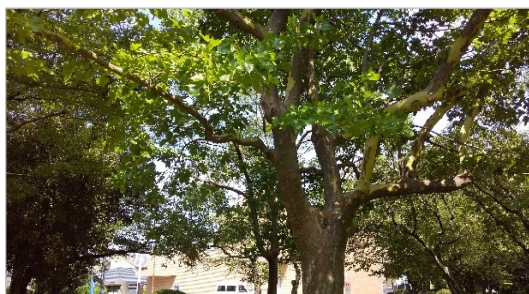
事業部主催「夏休み自由研究やらまいか」に 13 名参加



蒲の伝説の話を聞く子どもたち

最後には日本庭園内東屋に集合。東屋で滝の音を聞いて涼んだり、笹舟を浮かべて楽しんだりして、全員が集まった後に、まとめ会をしました。蒸し暑い日でしたが、12 時前には全員駐車場に戻り無事解散となりました。

築城 450 年を迎え、リニューアルオープンした天守閣、浜松城公園も徐々に整備され市民の憩いの場となっています。今回は保護者同伴オッケーで、ファミリーでご参加の方も何組もあり、万葉集や童謡を含めたユニークなお話は保護者にも人気があり、子供達はどちらかというと昆虫や山遊びが楽しかったようですが、一番人気はプラタナスの木でした。戦災で残った 3 本の内の 1 本が天守曲輪南西下に移植され「市民の木」と命名され元気に育っている姿に感銘を受けたようです。



一番人気があったプラタナスの木

7 月 25 日(日)事業部主催による「夏休み自由研究やらまいか」が、小学 3 年 5 名(男 1、女 4)、4 年 4 名(男 3、女 1)、5 年 2 名(男 1、女 1)、6 年 2 名(男 1、女 1)の計 13 名参加で開催されました。

今回はコロナ禍もあり、屋外での一日だけの開催となり、テーマは「浜松城公園・緑の中でいろんな植物観察しよう」でした。朝 9 時せせらぎの池集合、スタートに先立ちコロナ感染予防対策の検温、問診票記載、注意事項説明等があり、講師の高橋謙治さんより植物の一つ「蒲(ガマ、カバともいう)」についての伝説を含めた詳しいお話を伺い、「一つだけでいいので植物を覚えて帰ろう、秋の七草を帰りまでに覚えましょう」との 2 つの課題が出て、順次 8 グループに分かれて出発しました。



小人数のグループに分かれて説明

講師紹介 高橋謙治さん
西ブロック所属の 20 期生、10 月を迎えると満 82 歳で今でも現役で浜松まつりに参加しています。日本自然保護協会自然観察指導員であり笹笛が得意。今回も開催に際し雌鶏(めんどり)のコケコッコー等をご披露してくださいました。

広報部 金原里枝(南ブロック)

9 月は防災月間!

9 月 1 日は「防災の日」そして 9 月は防災月間です。犀ヶ崖資料館では避難場所の案内図を作成して掲示しました。非常時に備えて避難場所をいま一度確認しましょう。



研修部現地研修会序章「神話の地 袖紫ヶ森周辺を歩こう」

11月16日(火)に実施が決まった研修部主催の現地研修テーマ、先ずはこの神秘的な研修名について知って頂かないといけません。藤原鎌足十代の孫・藤原静並が伊勢の皇大神宮に心を込めて祈願している時、神社の中から一匹の小さな蛇が出て来て狩衣の上をはい回っていましたが、やがて左の袖を超えて社の中に消えてしまいました。不思議に思って、狩衣の袖を調べてみるとぼんやりと紫色の文字で「蒲開発本願主」の文字が表れていました。この後、静並は蒲の地を探し、その蒲草の生えている荒れ地を開き始めました。こうして開墾が進み多くの人が集まってきて、ここにお社が建てられたのは大同元年(806年)、平城天皇の御代でした。この話の袖に紫で書かれた文字から蒲の地の開墾が始まったところから地名が「袖紫ヶ森」と名付けられました。



袖紫ヶ森・蒲神明宮正面

次に研修会のメインの予定は遷宮の成った蒲神明宮の正式参拝です。宮司富田様より許可をいただき、また神明宮内を案内していただく予定です。これはひとえに蒲神明宮の総代をしている地元の桶田さん(当会東ブロック)の力によるものです。またこの地域の見学場所の説明資料を作成して行事を推進できることに感謝、感謝です。西遠女子学園の西側に育った自分も知ることが多く良い機会でした。



伊勢神社から譲り受けた外宮の鳥居

蒲神明宮の南はかつて蒲地区の中心であり小学校、農協、役場などがありました。参道を南方面

の東海道に向かうと右に西遠女子学園があり左にマンボウ鈴木家跡があります。この地域が繊維産業の盛んな頃、繊維問屋をしていたマンボウ商店(新川の西今は笹田学園)の主人が住んでいたお屋敷です。現在は住宅地に変わっていますが、以前は土蔵、樹木に囲われ、池があり、西遠女子学園の大きな松とで参道の雰囲気厳かなものにしていました。当時の当主は信心深い方で蒲神明宮によくお参りをされ、蒲神明宮の為に尽力されていました。

右に折れると西遠女子学園の正門です。浜松で唯一残った女子校で創立者の岡本家は、昨年浜松宿を歩く研修で行った法林寺に墓地があります。平田より校地拡張の為移って来たのは大正十二年でした。この地に移ってから苦難の時代もありましたが、戦後の発展、施設の充実と教育の成果は眼を見張るものがあります。

后土(ごうど)神社のパワースポットに立ち寄り、更に南に進むと六間道路に出ます。参道と交差する東に第二次世界大戦で落とされた4.5ton爆弾の投下地点があります。なんとこんな近くに原爆の模擬爆弾が落とされたとは、今さらながらぞっとします。当初は直径50m深さ10mの穴があって1ton爆弾跡と言われていました。地元の歴史家が市の図書館に寄稿しています。

さらに進むと東海道沿いに蒲神明宮の一の鳥居が見えます。幅に比べて高さかなり高いのが特徴です。桶田さんの話では10月の祭りに各町内の屋台が集まってくる時、桁が邪魔になる為1m以上嵩上げしているとのこと。



一の鳥居

この鳥居から二の鳥居まで500m余り右に左に曲線を描いて参道が続きます。見えない先の神殿に向かう参拝者の気持ちを高揚させる効果のある道のりとのこと。

昨年の研修では、東海道を馬込橋の西側から大手門跡地に向かったが、本年は植松から東に向かう予定です。近年まで松並木が旅人を見守っていた道を歩いていると歴史を思い起こします。

ここはまだ研修の第一コーナーです。ページの都合で以降は現地と資料で、蒲の地と歴史を知ることができます。この後の主な目的地は以下の予定です。琵琶橋—子安神社—蒲協働センター—八橋神社—大蒲の光禅寺—日吉神社柳通り—西塚橋—サーラビル—巖邑堂菓子店—笠井街道入口—蒲幼稚園—蒲神明宮駐車場へ戻る。

研修部 飯田明良(北ブロック)

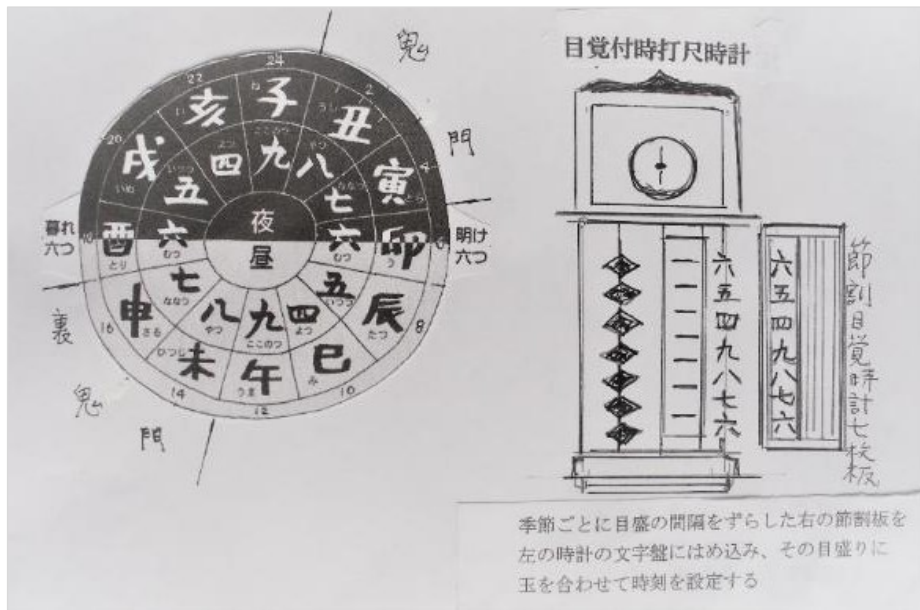
会員の交流広場

その1 江戸時代の「時」＝時間の話

今回、新しく「家康の散歩道」の一つに指定された秋葉神社は、家康が浜松城の裏鬼門の守りとして北遠の秋葉神社から勧請したのが始まりとされています。（表鬼門は浜松八幡宮。ちなみに再建された静岡駿府城の坤＝未申（ひつじさる）櫓は、城の南西方向裏鬼門に当たる）。

鬼門の方角は暦でいうと十二支の艮＝丑寅（うしとら）であり、2月の豆まきに出てくる鬼は、鬼門に住むといわれ、従って鬼は、丑（牛）の角を生やし寅（虎）のパンツをはいているというわけです。

また十二支と共に江戸の不定時法という時刻制度は独特のものでした。時計の無かった時代、庶民は日の出、日の入りを基準に時刻を作っていました。日の出30分前を明け六つ（午前6時）、日没30分後を暮れ六つ（午後6時）とし、その間を昼夜それぞれ六等分として一刻（いっとき）＝2時間としました。数は九つから四つまで下がり、また九つに戻ります。時刻はお寺の鐘などで知らされました。



江戸の時刻

何故一、二、三が無いかというと、鐘の音が一、二、三は短すぎて分かりにくいためだったようです。昼夜の長さは当然夏と冬、季節によって違ってきます。しかし江戸の人たちはそれで何の不便もありませんでした。

江戸の末期には「時計」も作られました。「遠州の民藝展（浜松市美術館で6月27日まで開催されていた）」で嘉永4年（1851年）に江戸京橋時計師庄吉作の銘が入った「目覚付時打尺時計」が展示されていました。季節によって時刻が違う「不定時法」の時代の時計とは？興味

津々見に行きました。—それは季節ごとに目盛り間隔が違う「節割目覚時計7枚板」というものがあり、それに合わせて、本体のそろばんのような玉を移動させて時を設定する、というものでした。

また庶民は、鐘の音で時を知るのが常だったので、この時代に作られた時計は、ほとんど時報を鳴らすもののようでした。

その2 自由な時間は絵を描くことで



敗軍の将

60歳の定年間近のころから絵を描き始めました。サラリーマンを辞めた時、どんな生活環境になるのか、正直不安でした。何を目的に生きるか？「ソフトランディング」が必要と思ったわけです。

そしてしばらくして観光ボランティアガイドに応募しました。正解でした。ある程度少しの強制を感じながら、ほとんどの時間は自分の自由な時間を楽しむ生活を送っています。5年前に股関節の置換手術を、去年は胃の摘出手術をしました。これから先は自分の体力と精神力と相談しながら、過ごすことになります。



浜松城

池下晶也（中ブロック）

犀ヶ崖愛護会 お盆の精霊納め物受け入れ

遠州地方では7月のお盆（内施餓鬼）におしよろ様と霊供膳を仏壇に供えます。13日夕方に玄関の前でオガラ（又はたい松）を焚き、煙にのって先祖の霊が家に戻ってくると信じられています。この日から15日までの3日間がお盆の期間とされています。この期間に遠州大念仏が行われます。15日夕方には送り火を行います。迎え火と同様オガラを焚いて仏様を送り出します。その後、おしよろ様などを全部まとめてお寺さんに納めます。

犀ヶ崖にあった宗円堂に近隣の住民がおしよろ様等の精霊納め物を納める習慣があり、現在でも続いています。宗円堂があった当時から「犀ヶ崖愛護会」の方々が精霊納め物を受け入れる世話をしています。今年も7月15日の朝から愛護会の内藤裕義会長はじめ8名の方々が、犀ヶ崖資料館駐車場にテントを張って「かがり火」「ローソク」「線香」「納め場」等の会場設営を行いました。「犀ヶ崖愛護会」は地元有



精霊納め物受け入れ（犀ヶ崖資料館）

志の方々が長年ボランティアで行っているとのこと。

近年は地元近隣住民だけでなく、遠方から精霊納め物を持ってくる方がいて、時間が守られないことがあり、困惑しているとのこと。「時間は15日夕方から夜9時までを厳守してほしい。翌16日早朝には片づける」とのことです。

おしよろ様の形状は地域により違いがありますが、遠州地方の一例を紹介します。おしよろ様はナス、キュウリで



おしよろ様

牛、馬を作り、足はオガラ、ナスの目は小豆、耳はナンテンの葉を使います。エサにはソウメン、ハスカサトイモの葉にナスを刻んだものと米を混ぜたものを盛ります。

今年はコロナ禍で犀ヶ崖資料館での遠州大念仏は昨年に引き続き中止になりましたが、精霊納め物の受け入れは「犀ヶ崖愛護会」の皆さんの尽力で無事終わりました。来年はコロナ禍が落ち着いて、遠州大念仏と盆踊りも併せて開催されることを願っています。

広報部 春日康治（西ブロック）

7月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。またこの3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター（浜松駅構内）」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

1日	木	浜松市立丸塚中学校	9名
2日	金	浜松市立佐藤小学校	58名
6日	火	浜松市立萩丘小学校	131名
8日	木	浜松市立船越小学校	81名
9日	金	浜松市立笠井小学校	82名
		浜松市立鴨江小学校	59名
16日	金	浜松市立和田東小学校	53名
17日	土	サンマイルズキッズ/ジュニア佐鳴台教室	23名

24日	土	おかやま内科放課後デイサービス入野	7名
※上記以外に3団体20名			

《犀ヶ崖資料館》

2日	金	浜松市立白脇小学校	185名
6日	火	浜松市立追分小学校	28名
9日	金	浜松市立笠井小学校	78名
		磐田市豊田東交流センター	20名

《浜松まつり会館》

※団体入場なし

はままつ案内人会報 229号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会
〒430-0946 浜松市中区元城町100-2（浜松城内）
TEL&FAX 053-456-1303
メールアドレス mail@hama-svg.jp
ホームページ <http://www.hama-svg.jp/>

はままつ案内人

検索



出仕大名 家康くん

出仕浪崎 直虎ちゃん